広報 さくら

第58号
令和 4年 1月 1日発行
発　行　小千谷さくら病院
発行責任者　中山　克成
編　集　広報委員会

# 2022年の新年にあたり

令和４年も昨年同様コロナ禍の中、慌ただしく緊張感をもって迎える事となりました。振り返ってみると、小千谷さくら病院も開院して21年が経過しました。国立療養所西小千谷病院から受け継いできた建物の老朽化により、３年間の議論を経て、令和５年５月に新病棟の完成予定となりました。当初の計画から２年の遅れでしたが、完成に向けて新たな準備を始めなければなりません。

しかし、当院の主たる役割である在宅生活が困難になった神経難病患者を主体とした医療は、今後も変わることはありません。根本治療が見つかるまで、全身管理に留意し、合併症にも気を配り、きめ細やかな医療を目指していきたいと思います。そのためにも職員の皆様の観察力は必須です。何でも話し合える風通しの良い環境整備に協力をお願いします。

行政からの要請もあり、在宅の神経難病患者等の短期入院も、今後は可能な範囲で受け入れる必要がでてきます。他病院と連携して医療安全も強化していかなくてはなりません。

感染対策としては、行政の要請のもとコロナワクチン接種の実施に向け病院全体として可能な限り取り組みます。幸いここ数年、ノロウイルス感染の発生はなく、インフルエンザのブレイクスルーもありませんでした。これからも油断せず基本的な衛生消毒に尽力します。また、口腔内清拭に重点をおいて、誤嚥性肺炎を予防しつつ、『食べる楽しみを可能な限り続けていただくこと』、『どのように栄養を摂取してもらうか』、『そのために何が出来るか』を皆で考えていきましょう。

さらに、ユマニチュードについても、技術を学び知識を増やしつつ、着実に進めていきたいと思います。

地域に密着し必要とされる病院であるため、職員の皆様とともに考えて実践します。当院が『この小千谷の地』で、根を張って貢献していくためには、時代の要請に応じて変化も不可避でしょう。

今年度から電子カルテを導入すべく検討・準備を進めています。患者様の記録やモニターの仕方も変わりますが、早く慣れて有効に活用して下さい。業務の効率化が図られ、働き方改革になることを期待しています。

患者様のご家族様にも、今まで通り関わっていただき、協力しながら患者様が当院に入院出来て良かったと安心していただけるような医療・看護・介護が実現できたなら、それこそが私達の仕事のやりがいではないかと思います。

今年も職員の皆様と共に健康で働けることを祈りつつ、『初心を忘れることなく』、仕事をしていきます。

よろしくお願い致します。

院長　山崎 元義

小千谷さくら病院の理念

**自分なり家族や友人が利用したい病院づくり**

## 各病棟長からのご挨拶

### 第１病棟

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

当病棟は、１月１日より介護療養病床から医療療養病床へ転換となりました。介護の必要度の高い患者様はもちろん、医療の必要度の高い患者様の受け入れが出来るようになりました。その為、夜間の職員の人数も増やし、患者様のケアに努めています。

また、昨年の看護研究では、座談会や聞き取りで患者様の意見を聞き、学習会や検討会で対応策を考え、接遇力の向上を目指して取り組んできました。今後も患者様に、少しでも満足して療養生活を送って頂けるように関わっていきたいと思います。

今年もよろしくお願いします。

第１病棟看護長　谷口　雅子

### 第２病棟

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年２病棟では、移乗支援道具の積極的使用に関するテーマで院内研究に取り組みました。当院の入浴はストレッチャーに寝た状態で特殊浴槽に入る形式です。ベッドから入浴され戻るまで数回移乗動作があります。その際に抱きかかえず、多少手間はかかりますが移乗支援道具の使用を徹底しました。その結果、患者様から安心で安楽との声もあり、職員の心身負担も軽減することができました。

今年も安心安全な療養生活の場として、ケアの質向上に努めていきたいと思います。

第２病棟看護長　大塚　明美

### 第３病棟

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

３病棟では、昨年、リハビリスタッフと介護スタッフが協働し、患者様に昼食前に様々な体操を行ってきました。患者様からは笑顔も見られ、楽しみにしているとのお声を頂いております。また、病院生活で四季を感じることが難しい患者様に少しでも四季を感じてもらえるよう病棟内の飾りつけも工夫して行っております。

患者様や御家族様の声から気づかされるところもまだまだありますが、自分たちのケアを振り返り、患者様や御家族様の想いに寄り添うことができるよう努めてまいりたいと思います。

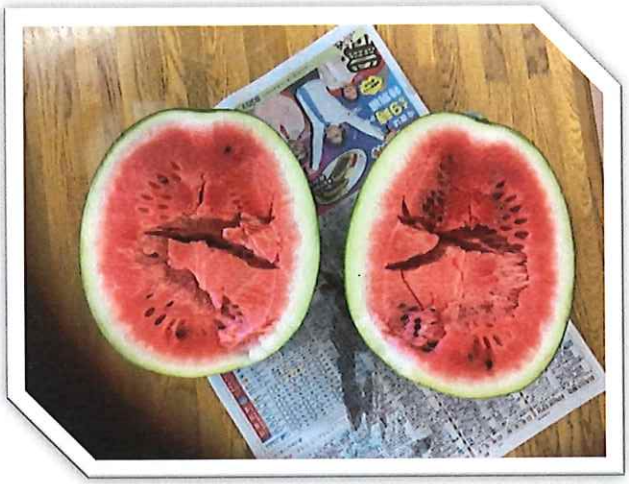
第３病棟看護長　蛯澤　みゆき

## スイカを食す会を開催しました

この夏、病院では立派なスイカが収穫出来ました。そこで8月１８日、３病棟とリハビリ部門との合同レク企画として、スイカを食す会を開催しました。「より多くの患者様にスイカを味わっていただきたい」との病棟からの希望により、リハビリ部門では言語聴覚士と協力し、様々な嚥下状態の方でもスイカを味わうことが出来るよう、スイカを濾して採れた果汁でスイカゼリーを作りました。患者様に応じて、そのまま食べていただく方から細かく砕いたもの、ゼリーで食べていただく方まで、食形態に工夫をしました。

さらに、スタッフがスイカの被り物を被り、患者様に棒で叩いていただくという、スイカ割りならぬスイカ叩きを楽しんでいただきました。普段、反応が少ない方も、笑顔で叩いていただく場面がたくさん見られました！

今後も患者様に楽しんでいただけるよう、研究を重ねていきます！



作業療法士　星野菜央

## 食事前に体操を行っています。

PT では 2020 年の 10 月から週 1 回、3 病棟でお昼に食前体操を行っています。食事前に体操を行うことで、患者さんの覚醒を促し食事がスムーズになることを目的としています。

体操の内容は、鉄道唱歌に合わせて手のひらをこする、膝を伸ばす、両手を伸ばして大きく胸を開くなどの座りながらの運動をメインにしています。患者様の前に立って体操をするのは緊張しますが、ありがたいことにスタッフ、患者さんが一緒に体操をしてくれるので、こちらも楽しく安心して体操をする事ができています。安全においしくご飯を食べられる一助になっていればいいなと思います。

理学療法士　仲丸　葵

## 芋・とったど～！

５月下旬に苗を植えて～１２０日が過ぎた１０月に患者様と芋掘りに挑戦！
不安定な天候の中、夢中になって芋を掘り起こすと、「芋・とったど～！」と満面の笑顔で掘り起こした芋を掲げました！
こうした患者様の姿を見るとスタッフ共々、元気になり楽しい時間を過ごすことができました。

植えた芋の種類は、安納芋（種子島原産・糖度が高く焼くとねっとりとした食感）です。
さつま芋は飢餓の際に備える作物として広く普及し、誰でも簡単に栽培でき、芋のツルもきんぴら等にして食べられます。
収穫した芋は、１ヶ月以上熟成（収穫時は糖度が少なく、熟成する期間により糖度が増す。）後の１２月に焼き芋にして秋の味覚を楽しみました！

※さつま芋は、食べるとガスや音が出やすくなるが、匂いは臭くないそうです！屁～。
それなら屁っちゃらですね？安心して放屁してください！？
部屋の語源とする昔話に、すごい屁をするけど実家に帰すほどではない。でも屁をするたびに吹き飛ばされては困るので、「嫁が屁をするための場所」つまり「屁屋」を作ったとさ・・・。屁～。

安納　芋蔵

### 編集後記

あけましておめでとうございます。コロナウイルスワクチンの接種が進んでいますが、まだまだ油断できない状態です。院内の行事も中止や縮小となっていますが、コロナ禍でも患者様に楽しんでいただけるように試行錯誤しながら取り組んでいます。
寒さも厳しくなり、インフルエンザや風邪に注意が必要な時季となりました。手洗い・うがい等しっかりして、お体には十分お気をつけください。今年もよろしくお願いします。　（永井 記）

社会福祉法人長岡福祉協会
小千谷さくら病院
〒947-0041 新潟県小千谷市小粟田２７３２番地
電話(代表)　０２５８－８３－２６８０
FAX　０２５８－８３－４４１６
URL　http://www.sakurahp.com
E-mail　info-01@sakurahp.com
広報委員　中山 克成・和田 一成・永井 恵美子
穴澤 健太・仲丸　葵・渡辺 優也